

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目／全3枚)

氏名 荒谷 啓一

発言番号		発言事項及び発言要旨	備考
1		<p>中山温泉文化会館等跡地周辺整備事業について</p> <p>本年6月定例会において、「今後、現在の中山温泉文化会館及び中山児童センターの解体設計、解体工事、新施設の設計、建設工事を行い、令和10年度のオープンを想定している」旨の答弁を受け、これまでそのように周知してきた。地元では11月に「中山温泉地区会館の整備検討に係る報告書」を基本的な意見とし、町内回覧や中山温泉地区まちづくり推進協議会ホームページでさらなる意見募集に努めている。</p> <p>本定例会のその他案件で、他の全地区会館の指定管理者の指定について議案が提出されており、中山児童センターについては、仮移転先の状態で指定管理の指定となっていることから、本事業は温泉地区のみならず、中山4地区の最優先事業として一日も早く進むよう地元の期待は大きい。</p> <p>市長交代により、事業計画に変更はないかと心配の声もあるため、改めて今後の方針について、所見を問う。</p>	
2		<p>中山温泉ゆけむり健康村跡地活用について</p> <p>11月の総務経済委員会において、「中山温泉ゆけむり健康村」の施設活用に係る公募型プロポーザルの結果について、「募集期間を1か月間延長したが応募がなかった」との報告があった。これまでの当局の民間活力導入に対する様々な努力に感謝するとともに、これまで述べたとおり、廃屋感が目立つので目途をつけるべきであり、民間公募等は終了すべきと考える。</p> <p>現在、道の駅駐車場・トイレは、イベント開催時や行楽シーズンで旧中山温泉支所跡駐車場などの満車時に、上流からの回遊拠点となっており、令和6年能登半島地震の際には、市内沿岸部の方々や福井ナンバーの避難車両も多く見られたと聞く。</p> <p>今後は今回の公募条件にもあるように、市施工で既存施設を解体し、道の駅駐車場・トイレも含めた防災広場などの整備について可能性はないか。</p>	
3	(1)	<p>加賀市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について</p> <p>中山温泉ぬくもり診療所について</p> <p>さきの9月定例会において、今回の条例案上程までのスケジュールとして、「各種調査の多角的分析を外部コンサルタントに依頼し、課題整理や今後の運用案などの提案をいただく。これらの結果などを踏まえ、運用の具体案を検証した後、加賀市地域医療審議会を開催し、中山温泉ぬくもり診療所の在り方の具体案と今後のスケジュール案を提示し、条例案を上程する」旨の答弁であった。</p> <p>これらのスケジュールどおりに進んだ結果、本定例会に至っているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目／全3枚)

			氏名 荒谷 啓一
発言番号		発言事項及び発言要旨	備考
(2)		<p>児童発達支援センター「このゆびとーまれ山中」について 現在、公益社団法人地域医療振興協会が山中温泉ぬくもり診療所の指定管理と一緒に、自主事業として運営しているが、あくまで診療所ありきであり、今後の運営主体は未定と聞く。</p> <p>先の9月定例会において、「施設に対しては高く評価しているが、市直営、準直営、法人運営など、児童発達支援センター設置の在り方について様々な可能性を検討している」旨の答弁であったが、4月以降はどのような運営体制になるのか。</p>	
(3)		<p>旧山中温泉医療センター跡地について 関連して、地域住民の関心が高い、旧山中温泉医療センター跡地については実質凍結状態であるが、市長交代により今後、検討の余地があるのか。</p>	
4 (1)		<p>九谷磁器窯跡について 九谷磁器窯跡保存整備事業について 令和4年3月定例会において、「平成30年度に九谷磁器窯跡に設置した九谷1号窯の復元整備について様々な意見をいただいた。整備工事は中断しているが、関係者との協議は継続している。令和2年度に加賀九谷磁器窯跡整備委員会の委員の改選を行い、令和3年度までに3回の委員会を開催し、九谷1号窯について、模型形状の調整案や塗装方法、模型を守る覆い屋設置などについて、意見をいただいている。それらの意見を参考に、整備方針の検討を進めており、令和4年度において整備方針を決定し、整備に取りかかりたい」旨の前向きな答弁であった。</p> <p>しかし、その後の事業進展が見られず、関係者から不満の声を多く聞く。今後の方針について、所見を問う。</p>	
(2)		<p>旧山中町教育センターについて 平成28年9月定例会において、「旧山中町教育センターでは、平成21年度から九谷古窯跡や再興九谷窯跡からの出土品を収蔵している。これらの出土品を展示・保管する施設が必要なところであるが、同センターでは耐震性や駐車場確保の面で困難なため、現在整備中の九谷磁器窯跡史跡公園をはじめとして検討していくので、当面は収蔵庫としての利用を継続したい」旨の答弁であった。</p> <p>会合等で「あの空き施設を活用できないか」との意見がよく出されるが、地元では収蔵庫としての継続で問題はないとしている。しかしながら、本施設はバスター・ミナル前にあることから、掲示方法を工夫するなど、空き施設としてのイメージを払拭していきたい。今後の方針について、所見を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目／全3枚)

氏名 荒谷 啓一		
発言番号	発言事項及び発言要旨	備考
5	<p>加賀スパトレイル（山中温泉トレイルレース）について 富士写ヶ岳、大日山、鞍掛山などの上級者向け山岳コースの大会であり、これまでの大会環境などの総合評価により、今年から3年間、世界大会に向けた日本初の予選大会に格上げになった。これまで市はあくまで側面的支援であったが、市全体・3温泉全体で支援することで観光・経済効果の波及拡大が期待され、これぞ加賀市という魅力を大いに世界に発信できる大会と考える。</p> <p>先般、市長は地元での実行委員会関係者との会合において、現状説明や協力支援について意見交換されたと思うが、今後の市の取り組み方について、所見を問う。</p>	
6	<p>山中漆器木地生産支援について 全国最大の漆器産地・山中漆器業界に市からは様々な支援をいただき、職人さんの後継者育成をはじめ、産地の生産力低下を防ぐため、業界とともに取り組んでいただいている。</p> <p>そのような中で、山中漆器の根幹をなす木地の基本であり、荒挽き材料を適切な価格で安定的に確保するために設置されている、山中漆器木地生産協同組合工場内の「木地乾燥機」が、導入後約50年を経過して不具合が生じ、生産に大きな支障を来しており喫緊の課題となっている。</p> <p>もちろん、関係者は独自の工夫をしているが、全国でも「木地の山中」として、人間国宝を有するこの木地挽物分野は、山中漆器のみならず全国に出荷されており、他産地にも多大な影響を与えるため、加賀市のイメージダウンにもつながりかねない。市の業界支援についての所見を問う。</p>	